

長崎旧市街地の成立過程における寺院の役割

長崎大学工学部 学生会員○木原 涼平

長崎大学大学院工学研究科 正会員 石橋 知也

1. はじめに

1.1 研究の目的と背景

古くから寺院は人々の生活に密接に関係し、地域集会や福祉・教育等の重要な役割を担ってきた。しかし、時代も変化するなかで経営が困難となり、寺院は減少傾向にあると指摘されている¹⁾。本研究では、そのような状況に立たされている寺院に着目し、地域における役割を再考することを試みる。ケースとして長崎旧市街地を取り上げ、その市街地の成立過程において寺院あるいはそれに付随する施設等がどのような役割を担ってきたかを明らかにすることを通じて、これからの役割を考察することを目的とする。

1.2 研究の進め方

本研究は次のように進める。1)近世時代の長崎旧市街地における寺院の立地について、関連する文献を基に整理する。2)一方で、長崎旧市街地における教会や公園の立地についても関連文献より整理する。3)さらに寺院の立地にかかわる地形についても分析する。4)上記作業を踏まえて、長崎旧市街地の成立過程と寺院の役割の関係を分析する。

1.3 調査範囲

長崎旧市街地は城下町(現桜馬場)と貿易のために建設された六丁町(現万才町)がその起源とされる²⁾。文献³⁾に記載されている享和2(1802)年の長崎の地図は桜馬場方面が少し見切れているものの、長崎市街地が描かれている。さらに「卍」の記号を判読することが可能であり、本研究の調査において基本図として使用することとする。

2. 旧市街地における寺院等の立地状況

享和2(1802)年の長崎市街地図には、寺院を意味する「卍」が41か所記載されている。これに対して、寺院の名称、創建年および標高を、複数の文献・地図によって整理した。この結果を表1に示す。さらに、同地図内に記載できる教会跡と長崎市での初期の公園を追記したものを図1に整理した。なお、一部の寺院については名称等が特定できていない。

3. 寺院の立地の分類

文献^{4),10)}等を基に、対象区域内の寺院立地は次の4つに分類した。すなわち、1)伝説や霊的な体験によるもの、2)土地の有力者が自らの土地や別荘、住居などを寄付したもの、土地の交換や元村主宅、廃宅に建てたもの、3)もともとあった廃寺を再興や、その土地に新たな寺院を建てたもの、4)教会跡地に建てられたものである。

4. 寺院の立地に関する考察

ここでは、長崎旧市街地の成立過程と寺院の役割について考察する。考察においては、寺院の立地する標高に、前章で述べた寺院立地の分類4)より教会跡

表1 調査対象とする寺院リスト^{4),10)}

記号	名称	創建年 注1)	標高[m] 注2)	記号	名称	創建年 注1)	標高[m] 注2)
T1	本蓮寺	1620	16.7	T22	福林寺	1644	18.4
T2	聖無動寺	1644	23.6	T23	深崇寺	1615	12.7
T3	法泉寺	1621	19.2	T24	大行寺	1658	9.1
T4	福源寺	1628	22.6	T25	三寶寺	1623	21.0
T5	鉢性寺	1626	19.2	T26	浄安寺	1624	11.8
T6	雲龍庵	1706	30.6	T27	光永寺	1614	8.9
T7	観音寺	1626	33.4	T28	興福寺	1624	19.0
T8	聖福寺	1677	37.5	T29	大平寺	1750	11.8
T9	永昌寺	1646	31.2	T30	延命寺	1616	20.6
T10	西勝寺	1632	12.9	T31	長照寺	1631	22.2
T11	安祥寺	1645	42.2	T32	晴臺寺	1608	15.9
T12	宝性院(荒神社)	1634	40.2	T33	大音寺	1614	22.4
注3)	高林寺	1646	24.9	T34	大光寺	1614	23.6
T13	功德院	不明	22.5	T35	崇福寺	1629	27.5
T14	大悲庵	不明	15.5	T36	宝輪寺	1641	14.9
T15	能仁寺	1647	23.6	T37	清水寺	1623	29.8
T16	青光寺	1645	9.6	T38	正覚寺	1604	22.6
T17	大教院	1646	11.4	T39	金剛院	1640	13.6
T18	竜淵寺	1631	13.1	T40	大徳寺	1703	25.5
T19	臨川院	1739	15.0	T41	不明	不明	不明
T20	光澤寺	1637	29.0	注1) 長崎叢書、長崎名勝園繪参照 注2) 国土地理院参照			
T21	徳勝寺	1644	13.2	注3) どちらか確定することができないため、併記する。			

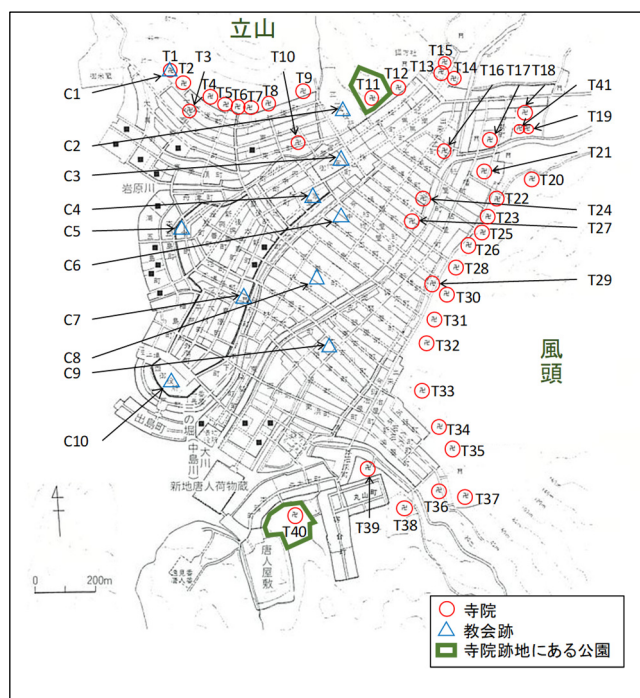


図1 旧長崎市街地の寺院²⁾

地に、長崎市における最古の公園に、それぞれ着目しながら進める。

4.1 寺院と標高

表1に寺院の立地する標高を示した。旧市街地北部の立山の中腹にあたる標高20～35mに連続して寺院が分布していること、同東部の風頭の中腹にあたる標高20～30mに連続して寺院が分布していることが把握された。いずれも旧市街地の外縁部から市街地を見下ろすように寺院が立地している。

4.2 寺院と教会跡

文献調査によって得られた教会跡の情報を表2に示す。キリスト教禁教令によって破壊されるまで、長崎市街地には11カ所の教会があった。(図1)。慶長19(1614)年に幕府の命令によって破壊され、その資材は仏教僧に与えられ、中にはその跡地が寺地となったものもある(図1中のT1が該当)。表1と比較することで、寺院の創建と禁教令による教会の破壊には一定の関連を見出すことができる。

4.3 寺院跡地の公園利用

明治6(1873)年、太政官布達第16号が通達される。これにより、政府は府県に対し、公園にふさわしい土地を選定するよう命じた。長崎県当局は第一候補として大徳寺跡を考えていたが、明治2(1869)年に戦没者を祀る招魂社となったため、第二候補の安禅寺跡が県営公園第一号となる(図1中のT11)⁸⁾。この公園は現在の長崎公園となっている。一方、大徳寺跡(図1中のT40)ものちに公園となった。

太政官布達第16号の公園設定には二つの条件が必要であったと指摘されている⁹⁾。一つ目は公園用の土地は官有地であること、二つ目は群集遊観の場所であることである。一つ目に関しては、版籍奉還や寺社領地の上地令によって長崎市内には多くの官有地があったと考えられる。さらに、上記二寺は共に寺格が高かったことや廃寺になっていたことから、条件を満足しやすかったと考えられる。二つ目に関しては、一般的な寺社の特長として、お伊勢参りや善光寺参りなどに代表されるように娯楽や観光の対象であったことは歴史的に明らかである。長崎の大光寺(図1中のT34)において「白桜が絶品で花時美観賞するもの多し」とある¹⁰⁾。候補となった安禅寺跡も同様に観光の対象であったものと推察される。

表1 教会跡のリスト 2),4),5),6),7)

記号	教会跡	所在地 注1)	創建年 注2)	破壊年 注2)	役割			破壊後
					病院	福祉	その他	
C1	サン・ジョアン・パウチスタ教会とサン・ラザロ病	筑後町2-10	1591	1606	○			T1
C2	山のサンタ・マリア教会	立山1-1	1594	1614				
C3	サント・ドミンゴ教会跡	勝山町30-1	1609	1614			○ 注4)	
C4	サン・フランシスコ教会	桜町6	1611	1614		○		
C5	サン・ベドロ教会跡	金屋町1	不明	1614				
C6	サン・アントニオ教会	角の町4	不明	1614				
C7	ミゼリコルディア本部と教会跡	万才町8	1583	1619 注3)	○	○		T33 注5)
C8	サン・チャゴ教会跡	栄町3	1603	1614	○	○		
C9	サン・アウグスティン教会跡	万屋町6-5	1611	1619 注3)		○		
C10	岬の教会 (サン・パウロ教会)跡	江戸町2-13	不明	1614				
C11	トードス・オス・サントス教会跡	夫婦川町11-1	1569	1614				注6)

注1)所在地は全て長崎市
 注2)長崎叢書「復元！江戸時代の長崎」新長崎年表、旅する長崎学、長崎市史、地誌編仏寺部参照
 注3)「1614年に11カ所の教会を破壊した」と「1619年にC7とC9を破壊した」との記述が存在する
 注4)集会所・博愛 注5)後に移転 注6)対象区域外の菩提寺となる

5. 今後の展開

4.1 について、寺院がなぜ山の中腹に立地するのか、寺院の標高と市街地の標高を比較してこれからの寺院が担うことのできる役割についてさらに検討する。4.2 については、文献の追加調査をおこない、分かっていない教会跡地の活用法について調査する。教会が担っていた役割がキリスト教禁教令後にどうなったのかについても調査予定である。4.3 については、候補地となった公園の空間的特徴についても分析を進める予定である。

参考文献

- 1) 四衢深・小林隆史・石井儀光・大澤義明(2019):「地方において寺院は見守り・移動サービス拠点となりうるか」、日本都市計画学会、都市計画論文集、Vol.54, No.3, pp.1483-1489
- 2) 布袋厚(2009):「復元！江戸時代の長崎」
- 3) 都市史図集編集委員会編(1999):「都市史図集」
- 4) 長崎市(1926):「長崎叢書」
- 5) 満井録郎・土井進一郎(1974):「新長崎年表」
- 6) 旅する長崎学 <http://tabinaga.jp/> (2021年1月6日確認)
- 7) 長崎市(1938):「長崎市史 地誌編・佛寺部上下」
- 8) 丹羽漢吉(1977):「長崎おもしろ草II 史談切り抜き帳」
- 9) 高橋理喜男(1974):「太政官公園の成立とその実態」、日本造園学会、造園雑誌、第38巻、第4号, pp.2-8
- 10) 長崎史談會(1931):「長崎名勝圖繪 長崎史談會編」